

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: http://www.konbukuroike.com

2025年3月

第131号

主な予定

3月27日(木)

9:10~9:50

柏商工会議所女性会 25名

3月13日(木)

10:30~12:00

まちづくりシンポジウム

於：ロイヤルパインズホテル千葉

5月11日(日)

10:00~12:00

通常総会

柏の里山文化が花開く！

「第7回 柏ネイチャークラフト展 2025」開催レポート

中川 恵美

2025年2月8日(土)~16日(日)の8日間、柏市あけぼの山農業公園にて、「第7回 柏ネイチャークラフト展 2025」が開催されました。主催は柏市里山ネットワーク。市内里山団体が加盟する団体です。



咲き始めた梅と共に、自然作品に触れる

会場は、25種100本もの梅が徐々に咲き始め、春の訪れを告げている梅園を見下ろす資料館2階。会場に入ると、中央に展示された天然木を使った大きな生け花が目飛び込んできます。

各団体の個性あふれる作品

壁面やテーブルには、各団体の個性あふれる作品が並んでいます。干支の蛇をモチーフにした作品、稲わら細工、竹灯籠、木彫りの像、また、下田の杜のコーナーでは、栽培した綿花を使用した編み物や糸紡ぎの道具などが展示されていました。

会場を華やかに彩ったこんぶくろ池の展示コーナー

こんぶくろ池のコーナーでは、今年は写真展示を充実させ、会場を華やかに彩りました。鳥や昆虫、植物などの写真を見たお子さん連れのご家族からは、「こんなに近くに自然豊かな公園があるなんて知らなかった」という声も聞かれました。当コーナーの展示の特徴は、なんと

とってもバラエティに富んだ作品の数々。自然素材を使った装飾品、竹



細工、鮮やかな樹名板、鳥の巣箱、木のつるで編んだ籠、手芸作品など、多彩な展示が来場者の目を引いていました。

高山武俊さんのお話

今回は、ネイチャークラフト展に出品されている高山さんにお話を伺いました。高山さんがこんぶくろ池で現在の製作を始められたのは、事務局長を務めていた古橋さんが亡くなられてからでした。その活動を引き継ぐ形で、竹トンボなどの工作を始めたそうです。竹トンボの製作工程は20ほどに及び、完成しても実際に飛ばしてみないと出来栄えがわからないという大変な作業であり、最初は苦勞されたそうです。竹トンボではありませんが、私も高山さんがいとも簡単そうに行う竹の作業を手伝わせていただいたことがあります。しかし、高山さんのようにはなかなか上手いかず、経験と訓練が必要なことを実感しました。子供の頃からこのような工作をされていたのかとお聞きしたところ、「そういえば」と前置きされ、クリの木につく虫から釣り糸を取ったり（調べたところ、クスサンというガの繭から糸が取れるようです）、雪が降れば竹でソリを作って田んぼの斜面を滑り降りて遊んだりしていたと、自然の中で過ごした幼い頃の思い出を語ってくださいました。そのような子供の頃からの経験と、さらなる技術向上への意欲があったからこそ、現在の竹細工を続けられているのだということを感じました。高山さんにはこれからも作品を作り続けていただきたいという思いと共に、この活動を継承していくメンバーが育っていくことを願っています。高山さんは鳥の巣箱も作成されていますが、鳥の調査メンバーもこの活動に参加してはどうかというお話もありましたので、私も次回の製作の際は、ぜひ参加したいと思っています。



高山武俊さん【竹の花器】

玄関を想定し、敷物と花器がセットで飾れる作品。



名川裕子さん【ちぎり絵】

こんぶくろ池に自生するギンラン、キンラン、ササバギンランを和紙で表現。



徳永さと子さん【ススキのヒンメリ】
園内で刈られたススキを使用して作られた
フィンランドの室内装飾品。



中川恵美【クロスステッチ】
写真から図案を起こし、刺繍で全面刺しにした作品。

来年に向けて

ネイチャークラフト展では、隣室で『枝絵アート体験ワークショップ』も開催されており、テーブルで作品を作るお子さんやご家族の姿が見られました。こんぶくろ池でも年間を通してワークショップ等のイベントを開催していますので、今回は、その際の様子や完成した作品などを展示すれば、さらに興味を持ってくださる方を増やすことができるのではないかと思います。また、作品をお持ちでありながら出品されない方もいらっしゃいましたので、今後はより多くの方に出品していただき、こんぶくろ池の活動の魅力をより発信できればと思います。

《ノジトラノオ》との出会い

後藤 秀夫

令和3年6月中旬の某日、私は豊四季台近隣センターの職員として勤務していました。この日の夜当番の管理人さんから、出勤時、開口一番、『今日、こんぶくろ池の自然観察会に参加してきたんだけど、同じ植物が、このすぐ近くにあるみたい』と言われました。これを受け、隣接地のUR所有の松林周辺を見に行ったら、なんと500株位の群生を確認出来、図鑑と照らし合わせた結果、本物だと確信しました。

このため、すぐに専門家に鑑定依頼したところ、同年7月21日純血種だと判明し、柏市としても保護の方向に動くこととなりました。なお、この場所は、近々開発計画により更地になってしまうため、適地に移植することとし、隣接する市道法面及び近隣センター敷地に同年11月に移植を実施した次第です。

現在、保護のため、センター敷地内の樹木の剪定並びに除草を一手に引き受け、猛暑・乾燥対策の水撒きも欠かさず行なうようにしています。

今回、保護活動に至った経緯を振り返ってみると、《こんぶくろ》との大きな縁を感じ、感謝しております。今後とも、宜しくお願い致します。



令和七年冬季こんぶくろ池句会・歌会作品集

世話人 松田 和生

俳句の部

陽が差して落ち葉布団に眠る種
 絡みつき未練がましく枯葎（かれむぐら）
 福は内散った豆にはしゃぐ犬
 この道はいつかゆく道彼岸花
 アナログのもうすぐ春とキャンデイズ
 木道の軋み果てまで冬の森
 立つ春や池に降り立つ白い鷺（さぎ）
 待ちわびたツグミにやっと逢えた朝
 七色の言葉を操るシジュウカラ
 この道は行き交う人なし冬の森
 冬空に心が躍る夜汽車の入線
 陽だまりは何処も笑顔日向ぼこ
 かれた木をモクモク集め想いつのる
 日溜まりにポッポ（鳩）と遊ぶ影法師
 お前は誰猫の遺毛や冬ひなた
 冬来りマスク姿の初老人（びと）

あおはもゆ
 あおはもゆ
 あおはもゆ
 安曇野人
 木下勇二
 木下勇二
 昇笑
 中川望
 中川望
 ノー・ボール
 秀夫
 まさえ
 みなみ
 吉川億空
 吉川億空
 わらしべ

短歌の部

ざわざわと木立を揺らし木枯らしは
 今年の垢を振るい落としぬ
 葉が落ちて天然パーマの藤づるの
 蕾を生かす鉄一つで

Q太郎
 権兵衛

口あけてゆれる乳歯を見せる孫 ちよこつと押したらポロリと落ちる	昇笑
寒風もものともせず に 咲きほこる 川辺の水仙 真冬の花見	中川望
今日こそは 心静かに 過ごさんと 朝に誓うも昼まで続かず	中川望
手づくりの竹のぐい呑みかざしつつ 肩を寄せ合う年忘れ会	ノー・ボール
純白の樺太照らす初日の出 まだかと手を揉む宗谷の岬	秀夫
冬枯れのはるか向こうに燦然と 寒空彩る宵の明星	まさえ
大犬に子犬、オリオン天を駆け 惑星巡り月白く冴ゆ	まさえ
「打ち上げ」に互いの労をねぎらいて 酒杯に溢る楽しい想い出	わらしべ

あしがき

今年の冬は雨が少なく、こんぶくろ池の水深ゼロになる日もありました。それでも自然の森は元気に来園する者を歓迎していました。このような森を大切に作る仲間に新たに1名の方が加わり、延べ13名の方から作者それぞれの持ち味を生かしたオリジナリティとリアリティが光る俳句十六句、短歌十首が寄せられました。

自分はそんな柄じゃないと思っている読者がおられるかもしれませんが、実は作者の皆さんは、全員が全くの素人から始めています。未投稿の読者のみなさんもここで思い切って俳句・短歌の道へ一歩踏みだしてみませんか。きっと新たな世界が開かれることでしょう。

次回は春季（令和七年三月～令和七年五月）になりますが、思い立ったが吉日、事務所前の投稿箱の他、世話人あてのメールやメモでも結構ですので応募をお持ちしています。